平成八年度　理研会報　第248号

理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948－1

理科の学習指導に思う

印教研理科研究部長　臼井小学校長　福田　健

平成七年度に続いて今年度も研究部長を務めさせていただくことになりました。関係の皆様のご支援とご協力をお願いします。

さて、今回は、理科教育にかかわる実際の学習指導について、日ごろ感じていることの一端をあいさつに代えて述べさせていただきたいと思います。

特に研究的に取り組む実証授業の中などに認められる傾向の一つに、新学力観に基づく教師の「支援する」姿勢が強調される余り、自分の学習が成立している極く少数の子供以外は、何をしているのか分からない状態で、ただ何かをしている子供の姿があるように感じることがあります。

教師が、支援者の立場に立って、「学習指導」を行うことは、学習の主体が子供であることを考えるとき、当然のことですが、実際に学習活動中の子供たちの姿を見るとき、何か心配です。

私たちは、限られた時間の制約の中で、多くの場合、かなりの時間を要する自然の事物現象に直接触れる観察や実験を通して、一定の内容の教育をしなければならない立場にあります。支援者の立場に立ち、一定の時間の中で、一人一人の子供たちすべての学習活動を保証しつつ、時間のかかる観察や実験を伴う理科学習を成立させることは、今までにも増して重要な実践的研究課題だと思います。

もう一つの傾向に、子供たちが一瞬のうちに不思議さに疑問を感じ、探究の意欲を駆り立てられたり、現象の美しさや魅力に引かれて、自らもやってみようとする欲求に駆られたりするような、教師による魅力的な演示実験が少なくなったことが上げられます。

よく吟味された効果的な演示実験は、教師が「支援者」の立場に立って学習指導を行う場合にも、その後の学習過程に有効に機能して、子供自らの学習を成立させることに役立ちます。新しい学力観に立った演示実験の機能と在り方を見直してみてはいかがでしょう。

平成八年度　事業計画

- 五月十五日　印教研　理科研究部総会（成田小学校）
- 七月二日　研究員集会（成田小学校）
- ＊夏休み中　理科実技研修会　理科現地研修会（各部会単位で実施）
- 九月二十四日～二十七日　郡理科作品展（成田小学校）
  審査　二十四日
  公開展示　二十五日～二十六日（一時～四時半）
  搬出　二十七日（午後）（除県展出品作品）
- 十月一日　印教研集会（成田小学校）
- ＊年間『理研会報』の発行
- ＊研究学校への協力　印教連指定研究学校　朝陽小学校

平成八年度　理科研究部役員一覧

◎理科研究部長
- 福田　健（臼井小）

◎理科研究副部長
- 土井　仁（吾妻中）
- 京相　光徳（朝陽小）

◎各部会理科研究部長
＊一部会部長
- 林　和之（佐倉小）

＊二部会部長
- 武井　正巳（八生小）

＊三部会部長
- 相田　義則（桜台中）

＊四部会部長
- 岡　清志（朝陽小）

＊五部会部長
- 大坊　孝志（四街道中）

◎理事
一部会
- 今井　正臣（根郷小）
- 福田　健（臼井小）
- 石田　政光（印南小）
- 加藤　弘明（弥富小）
- 間宮　哲人（和田小）
- 今井　和彦（西志津中）
- 佐藤　光廣（佐倉小）
- 佐藤　久司（志津小）
- 蒲原　豊（小竹小）
- 大野　尊史（千代田小）
- 深山　民夫（山王小）
- 斎藤　政勝（西志津中）
- 森本　敏彦（井野中）
- 松橋　和彦（西志津中）
- 杉山　栄一（井野中）

二部会
- 佐藤　幸納（成田小）
- 本橋　茂次（新山小）
- 徳田　進（三里塚小）
- 木川　香（久住一小）
- 土井　仁（吾妻中）
- 飯田　和宏（久住二小）
- 岩井　睦（成田小）
- 林田　孝二（栄中）

三部会
- 関口　勝義（白井一小）
- 久本　邦夫（池の上小）
- 吉井　猛彦（大森小）
- 河辺　久男（本埜二小）
- 松田　治久（印西中）
- 相田　義則（桜台中）

四部会
- 京相　光徳（朝陽小）
- 清水　龍彦（八街中央中）

五部会
- 安井　寅蔵（中央小）
- 荒木　昭夫（大日小）
- 小山　治（四和小）
- 高槇　正昭（栗山小）
- 森　成雄（栗山小）
- 三村　宏治（千代田中）

◎幹事
- 岩井　睦（成田小）
- 佐々木　猛（佐倉中）

平成八年度　印教研理科研究部　研究テーマ

《研究主題》

子どもたちが興味を持ち、主体的に参加する理科学習は、どのようにすればよいか。

《主題設定の理由》

身のまわりには自然がたくさんあるが、その自然を利用しての理科学習が行われているかということになると課題が多く残る現状である。

子どもたちが自然を見つめ、自然の中にとけこんでいく中で、自然を自分の身体で受け止め感じ取れるような理科学習であろうと努力している。

自然に直接働きかけながら観察実験を行い、それを調べる態度や技能をどう育てていけば良いか、指導法・教材の選択などを考えていきたい。

編集後記

理研会報第二四八号をお届けいたします。

今後、より一層、充実した内容にしていきたいと思います。会員の先生方のご協力をよろしくお願いいたします。

印教研　理科研究部事務局

☆投稿等につきましては、各部会部長にお尋ね下さい。